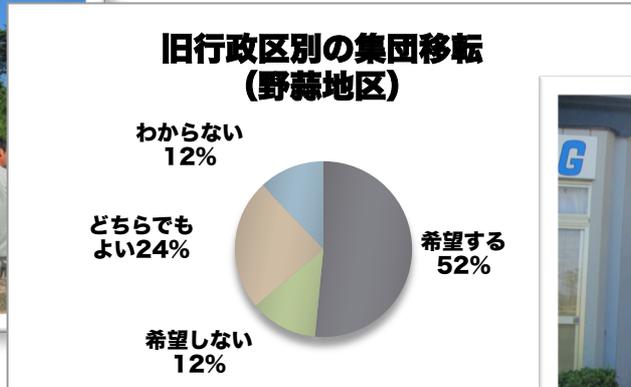


野蒜復興新聞



復興班

緊急避難道と避難場所視察

8月19日(日)午後から、野蒜まちづくり協議会の復興班のメンバーで、緊急避難道と避難所として適していると思われる場所の視察を実施しました。もし今仮に津波がおきたならばどこへ逃げるべきか?ということ为前提に、新町地区、亀岡地区、東名地区などの高台を中心に視察、話し合いの場で提案されただけでなく、実際に自分たちの足で歩き、目で見回ることによって本当に避難道や場所として適しているのか、その場で確認することができました。新町区においては、先月実施した東松島市防災訓練の時、実際に住民が避難した場所です。また新東名から中下へぬける新東名・大茂倉線も実際に確認してまわりました。今現在では車一台が通ることが精一杯の道幅であり、避難道とするならば二車線の道幅は必要であること、またこのような道なども近隣地域住民しかわからないことなど、新たな課題なども確認することができました。新東名における長石神社にある一時避難場所においては、このたびのような津波が起きた場合は一時避難場所としては機能しないこと、急な斜面での避難においては高齢者が避難できないのではないか、などいろいろな意見がだされました。このたびの視察の内容なども含めて、今後もより良い避難道と避難場所を協議していきます。



住民説明会にてアンケート実施

復興班の議題の一つに「行政区別の団地形成計画策定」があります。まずは住民自身から意見を伺ってみようということで8月22日～30日まで市役所により実施された「集団移転などに関する説明会」に参加して下さった野蒜地区住民へアンケートを実施しました。質問事項は「野蒜北部への集団移転先へ、旧行政区別での団地形成を希望しますか?」というもの。解答して下さった363名の結果は希望する52%、希望しない12%、どちらでもよい24%、わからない12%。この結果からおよそ半数の住民の方々は旧行政区での団地形成を望んでいること、また半数の方々は希望しない人やどちらでもよい人、わからない人で占めていることなどがわかりました。この解答結果は今後野蒜まちづくり協議会復興部での参考資料とし、市の方へも提出できるよう協議を進めています。またアンケートでは「少しでも早く移転事業が実現しますように」や「高齢者や障害者を優先的にお願いしたい」「高齢者2人暮らしですが3LDKは欲しい」「震災前の地域をとりもどしたい」など多数のご意見をいただきました。中でも共通したご意見としては、早期移転事業の実現を求める声が多数見られ、このような皆さんの声もしっかりと受け止め伝えて行けるよう協議していきます。今後の予定としては10月に4つの班の協議内容を一つにまとめ、一度市へ要望書という形で提出することで協議を進めております。

次の日程 : 野蒜市民センター

★復興部会 (4つの班の全体会議)

9月30日(日) 13:30~

復興部 他の3つの班会議



教育施設班 9月8日 10:00～

これまでに4回目の教育施設班会議を実施しました。中学校や小学校はどのような場所が適しているか、子ども達にはどのような通学路が必要となるのか。また新たな教育施設として、移転先へ1000人規模の文化ホールのような施設が必要ではないか。野蒜にあったバウンズのような総合体育館のような施設を再建させたい。マレットゴルフ場、テニスコート、プール、サッカー場、野球場などの教育施設が必要ではないか。まずはメンバーに思いを自由に語ってもらい、その中から要望していく項目を協議しています。野蒜に必要な教育施設を皆さんで実現できるよう、協議を今後も続けてまいります。

(教育施設班:内海國男班長)

医療福祉班 9月10日 19:00～

医療福祉班ではこれまでに3回の会議の場を持ってきました。現在の野蒜地区は無医村状態であり、高台移転地域へ医療福祉施設が完成するまでの間、在宅者への措置として診療施設や介護施設などが必要ではないか。また集団移転先へ、診療施設、高齢者福祉施設、子育て支援施設などを担う総合福祉施設の誘致。子ども達の遊び場として旧JR仙石線を遊歩道として整備し、歩道へ隣接する形で公園施設などを設置してはどうか。在宅者が今後緊急時にどの経路でどこへ避難するべきなのか、緊急避難経路の特定と周知などを、第一に特定するべきではないか。安全で安心して生活できる野蒜を実現するため今後も協議を進めていきます。

(医療福祉班:寺嶋正泰班長)



産業振興班 9月6日 16:00～

9月6日「第3回産業振興班会議」が実施されました。これまでの話合いで固まってきたのは野蒜の産業振興を盛り上げて行く上でまずテーマを定めました「松林と運河のある街」。再度野蒜海岸沿いには松林を植林し大きな公園を、農地には農林水産関係の研究施設の誘致、旧野蒜駅周辺へかんぼの宿のようなメイン施設を、それに隣接して農家レストランなどの商業施設を、運河沿いには宿泊施設、また運河にはボートを走らせるなど、ヨーロッパの町並みのように外部からも多くの人々が感心をよせるような産業振興を実現し、地元の雇用も産み出して行こうと、活発に協議が進んでいます。

(産業振興班:木島照男班長)

